



仙波糖化工業株式会社

証券コード：2916

個人投資家様向け会社説明会資料

2020年8月29日

目次

I	会社概要	P 2
II	利益成長に向けて	P13
III	2021/3期業績予想	P22
IV	株主還元	P27
	参考資料	P30

I . 会社概要

プロフィール

商号	仙波糖化工業株式会社
創業	昭和21年10月4日
代表者	代表取締役社長 小林 光夫
本社	栃木県真岡市並木町2丁目1番地10
資本金	15億 50万円 (2020年3月末)
売上高	207億42百万円 (2020年3月期)
従業員数	586名 (連結) (2020年3月末)
発行済株式数	11,400 (千株)
主な事業内容	カラメル製品・乾燥製品・冷凍製品・組立製品

食品の「色・味・香・旨」を演出する食品素材メーカー

こんなところに

- カスタードプリン、
炭酸飲料・コーヒー牛乳 にも…



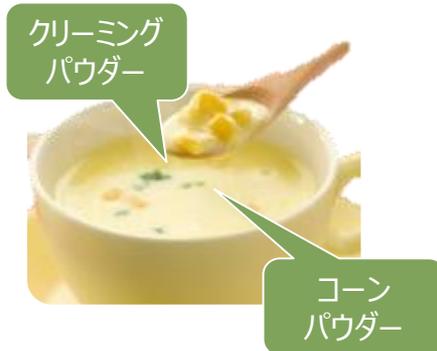
- インスタントラーメン にも…



- 粉末茶 にも…



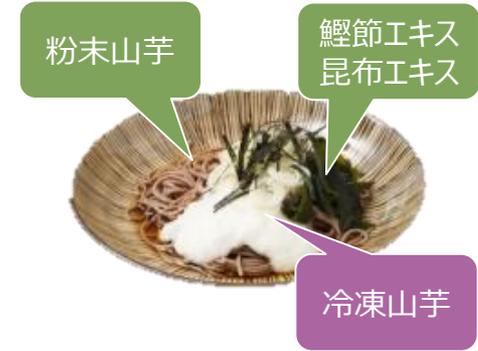
- インスタントコーンスープ にも…



- 即席味噌汁 にも…

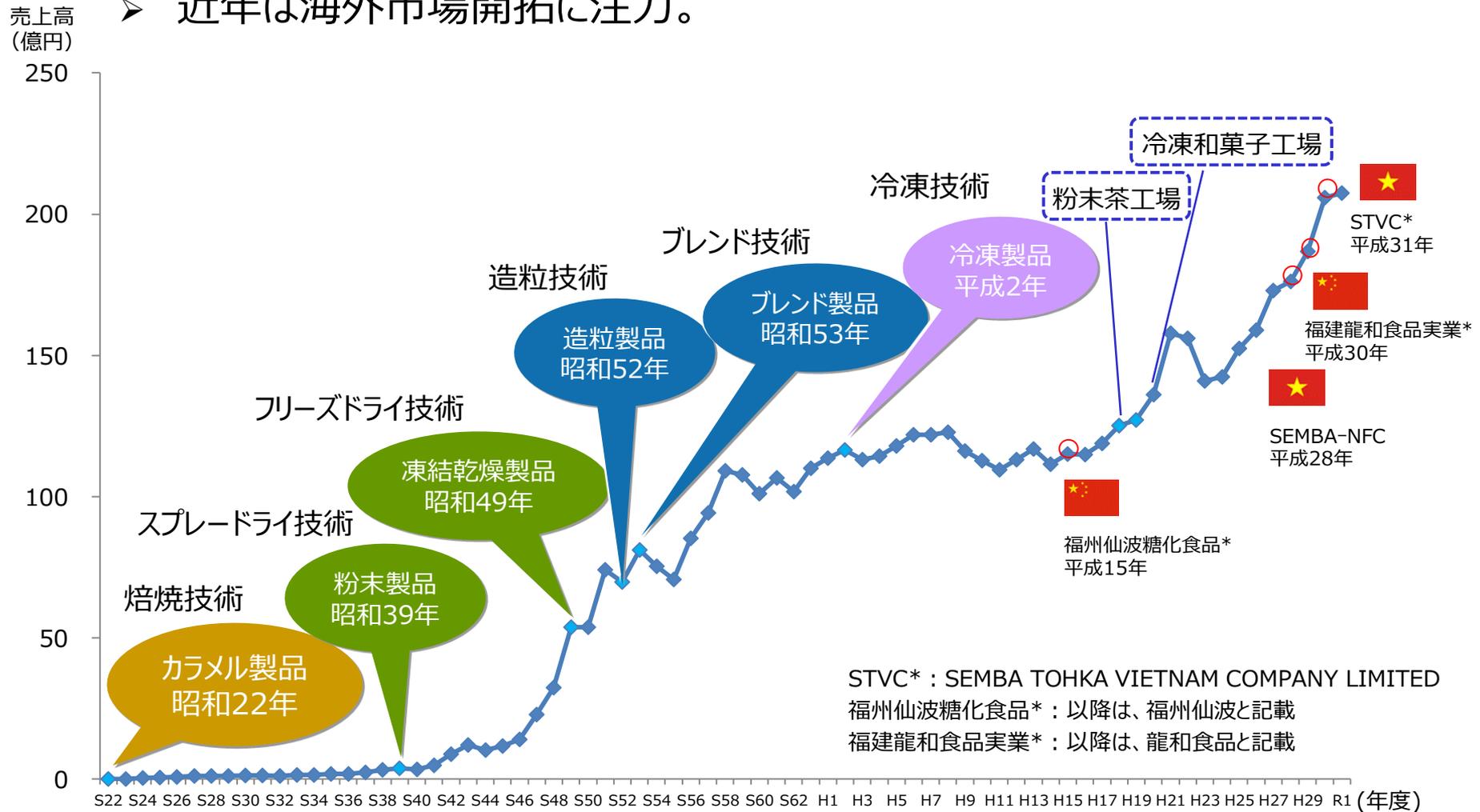


- とろろそば にも…



業容拡大の歴史

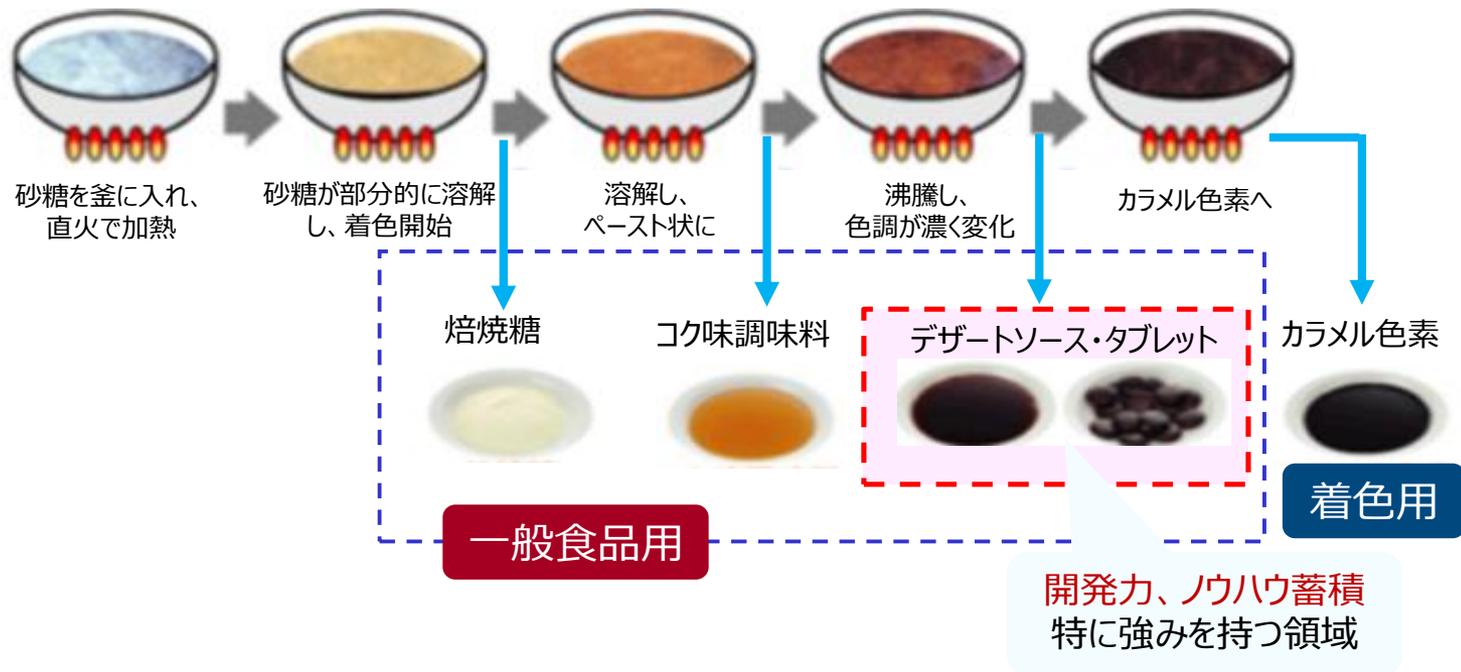
- カラメル製品で創業
- 近年は海外市場開拓に注力。



- 創業商材。国内シェア**トップ**
- 焙焼技術で着色用と一般食品用を作り分け。
- 高付加価値のデザート向け新製品開発に注力。

焙焼技術とは

糖を独自のノウハウで加熱し、多用途な製品を作り分ける。
 キャラメル製品は用途に応じて液状製品と固形製品に大別される。



着色用

清涼飲料やアルコール飲料、ソース、カレーなど

一般食品用

プリン、アイスクリーム、ケーキ、バウムクーヘンなど

一般食品向け製品例

キャラメルソース
(ボトル品)



キャラメルソース
(タブレット)



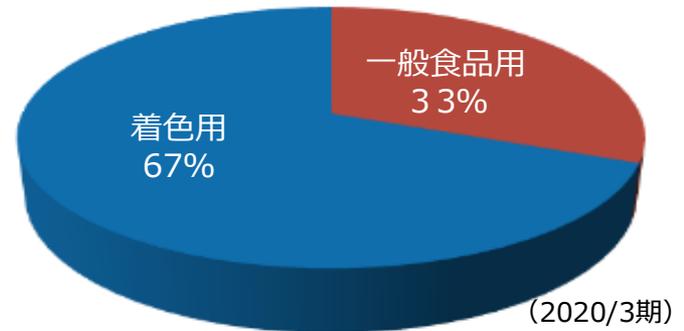
キャラメルソース
(顆粒品)



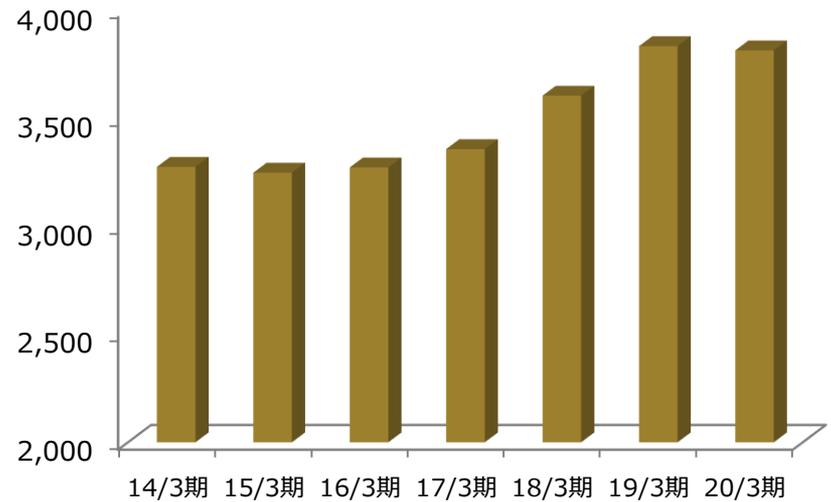
キャンディー・チップ



用途別キャラメル製品売上構成



キャラメル製品売上高推移



- 売上高の約**80%**は B to B、粉末製品と凍結乾燥製品を手掛ける。
- 粉末製品は、粉末茶や粉末調味料（味噌や醤油）などを販売。
- 凍結乾燥製品は、野菜ブロックや粉末山芋が主力。

当社の主力製造技術

粉末製品

スプレードライ(SD)技術

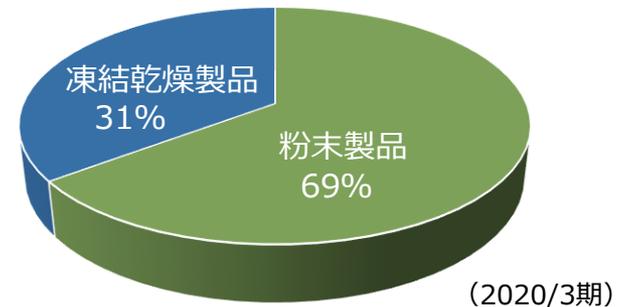
液状化した原料を霧状にし、加熱空気で瞬間的に粉末化する乾燥技術。乾燥工程が短く、大量生産に威力を発揮し、高品質で、低コストな製品の安定供給が可能。

凍結乾燥製品

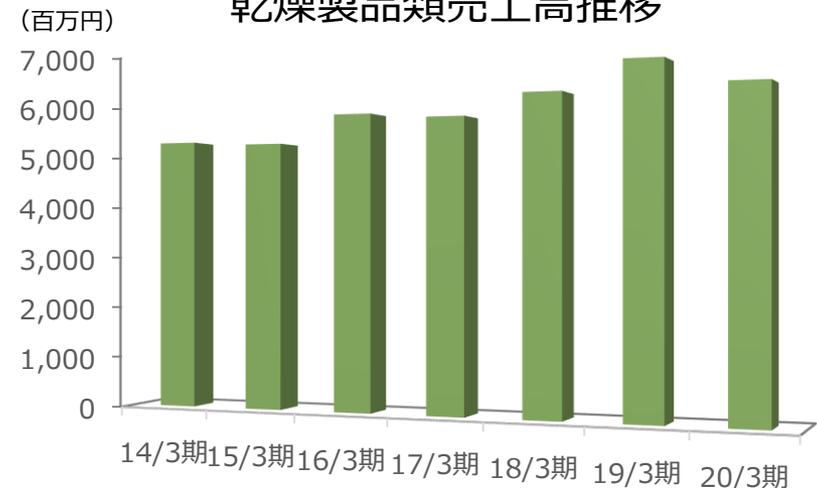
フリーズドライ(FD)技術

凍結させた原料を真空状態のもと、低温で乾燥させる技術。素材の色、味、香り、栄養をそこなうことなく乾燥することが可能。保存性や簡便性に加えて、機能性が高い乾燥方法。

乾燥製品類売上構成



乾燥製品類売上高推移



主な乾燥製品の紹介

国内市場向け

粉末製品例



凍結乾燥製品例



粉末山芋

海外市場向け

粉末製品例



抹茶ラテ

凍結乾燥製品例



野菜ブロック

聖シリーズ【煎茶】【ほうじ茶】



稀シリーズ【煎茶】【ほうじ茶】



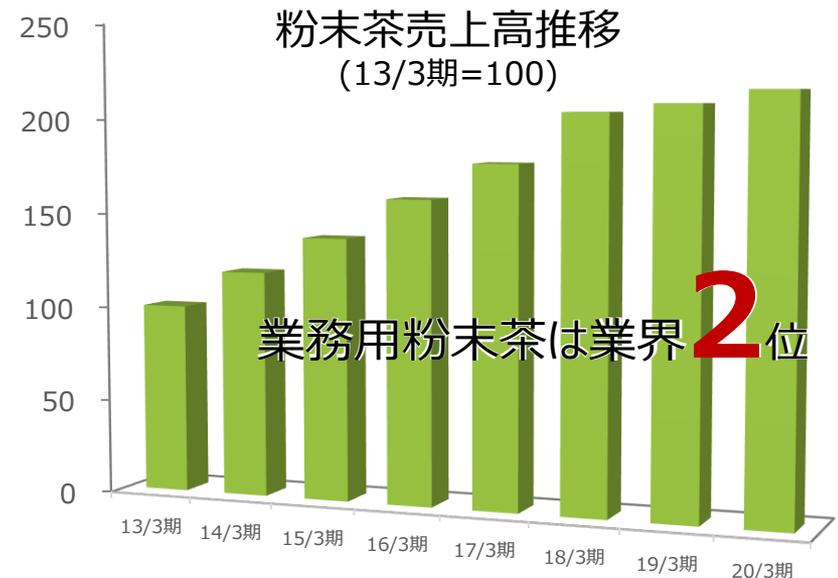
【紅茶】



【玄米茶】



【麦茶】



- 冷凍和菓子はメディアケア市場向け中心に、約**50**種類を販売。
- 冷凍山芋は業務用・CVS向け中心。取扱量は業界**2**位。
- 中国子会社は主に冷凍デザート製品を手掛ける。

冷凍和菓子



冷凍山芋

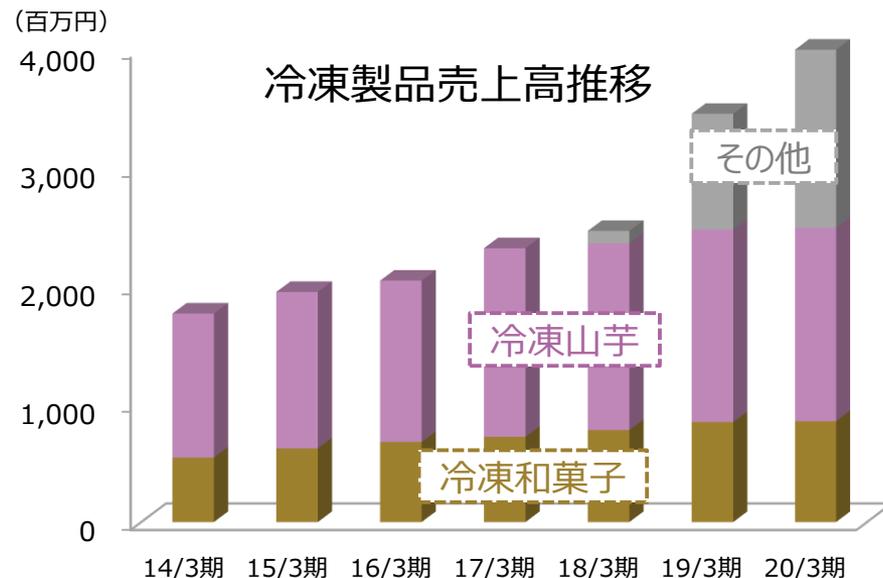


その他(海外)



【タピオカ】

【ライチゼリー】



- 造粒製品とブレンド製品とも受託加工が中心。
- 溶け易くなどのキーワードで提案営業を強化。
- 現在は、健康食品関連製品の受託が牽引。

造粒とは

粉末食品の「溶けにくい」、「流動性が悪い」、「吸湿性が強い」等を改善し、より使い易い最終商品へ仕上げる。

造粒製品

スープ類、健康食品、スポーツ飲料、ココア等



ブレンドとは

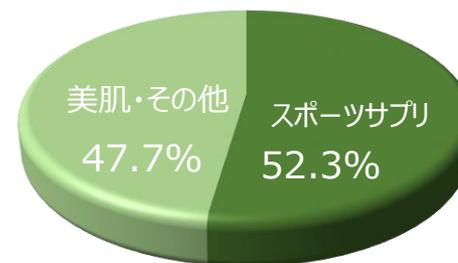
各種原料を混合し、原料の持ち味を活かした粉末状調味料やインスタント食品などを製造する。

ブレンド製品

小麦粉ミックス、唐揚げ粉、みそ汁、粉末エキス等

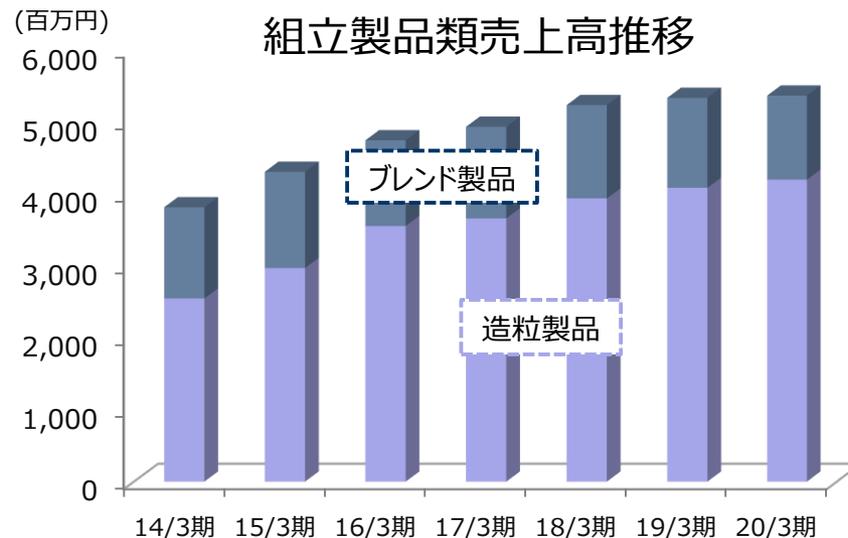


健康食品の売上構成

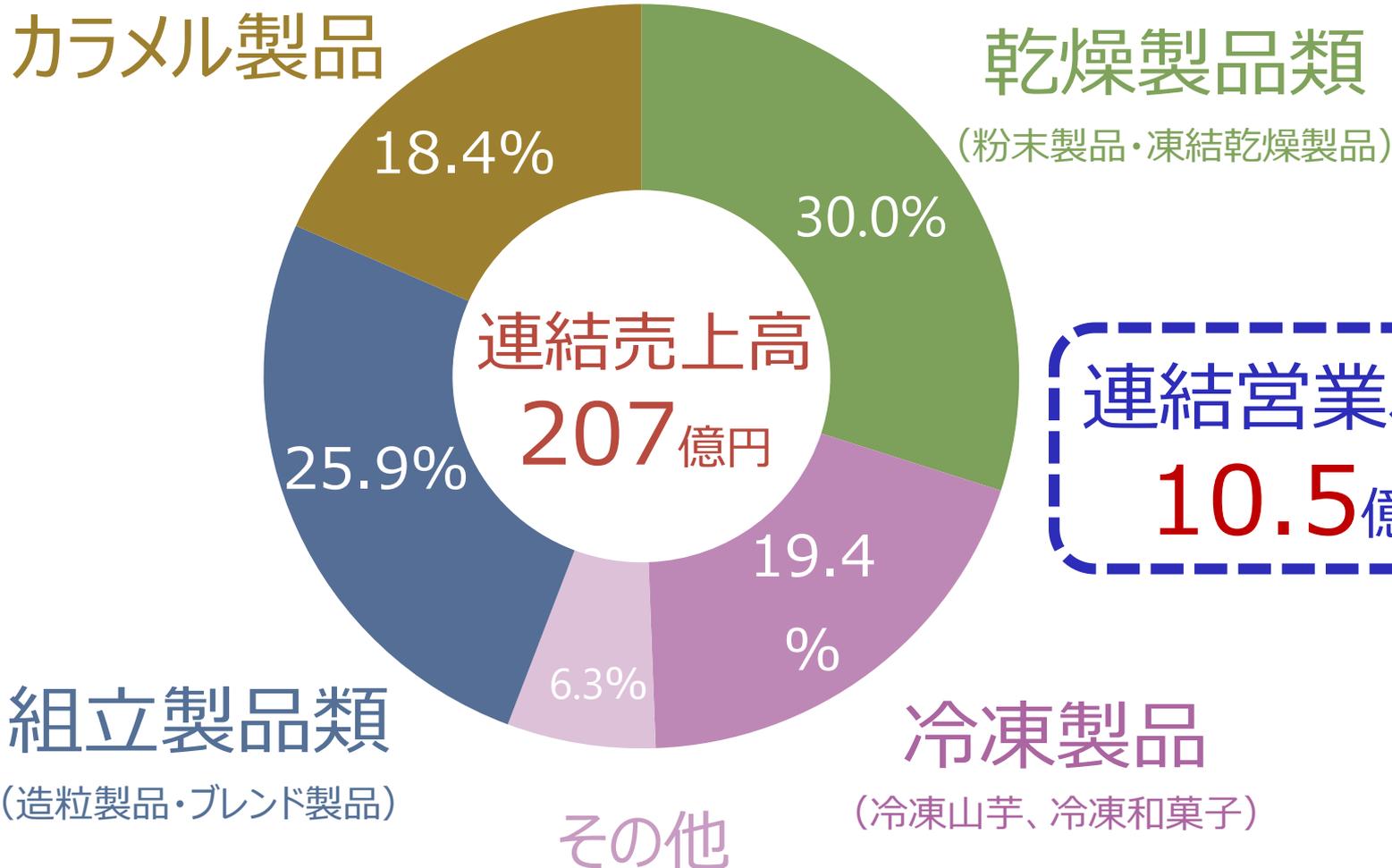


2020/3

組立製品類売上高推移

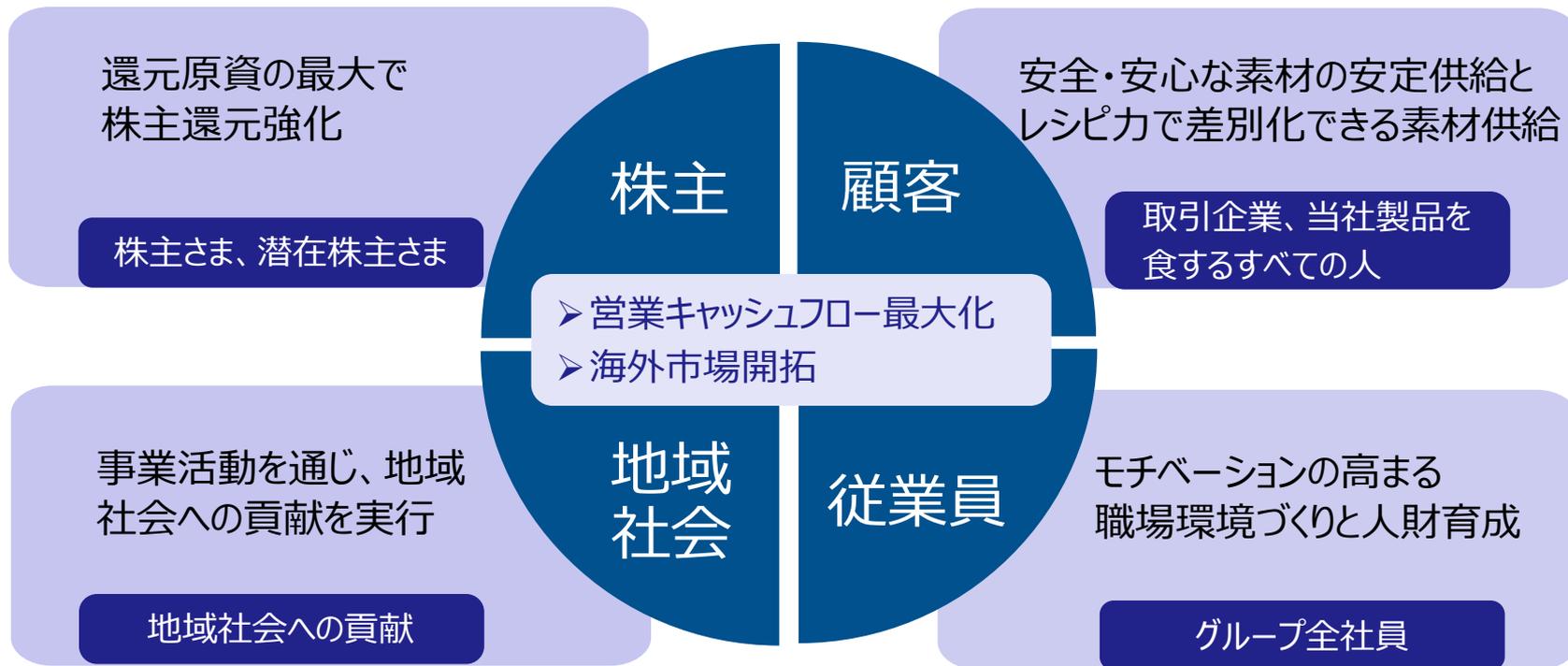


製品群別売上構成



Ⅱ．利益成長に向けて

100年企業に向けた強固な基盤を構築



より良いものを作り、顧客信頼度を向上させ、収益を伸ばすことで株主様、従業員、地域社会への還元を増やす

基本戦略

グループ経営力強化

- ◆ 海外子会社管理強化
- ◆ 個別経営からの脱却

自社商材拡販

- ◆ 開発強化
- ◆ 提案営業強化

海外市場開拓

- ◆ 中国市場対応
- ◆ 東南アジア市場対応



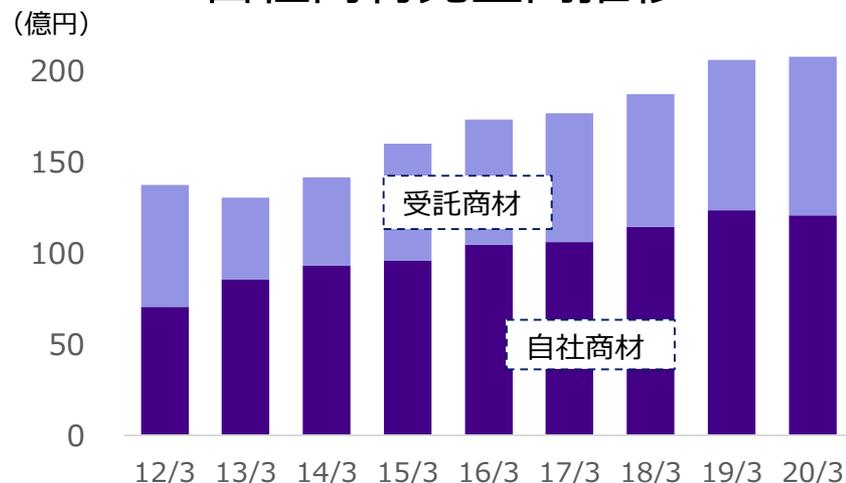
目標

営業キャッシュフローの最大化を目指す

成長投資資金の確保と還元強化

注) 営業キャッシュフロー = 営業利益 + 減価償却費

自社商材売上高推移



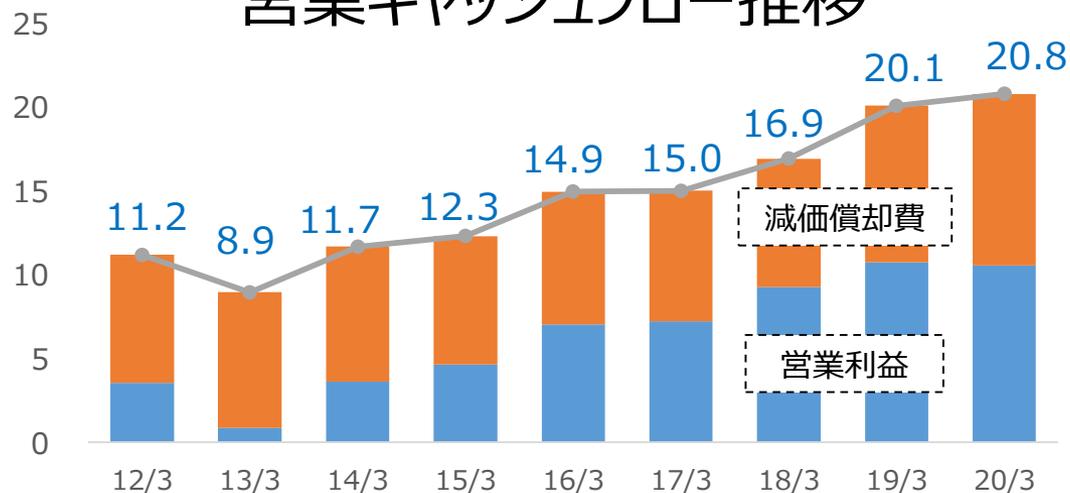
海外市場向け売上高推移

(単位：百万円)

	18/3期	19/3期	20/3期
海外売上高	264	1,497	1,403
海外売上比率	1.4%	7.3%	6.8%
海外子会社	225	1,465	1,342
輸出	39	32	61

(億円)

営業キャッシュフロー推移



①海外子会社の管理体制強化

経営体制

- ◆ 中国事業管掌役員が龍和食品の董事長に就任
- ◆ ベトナム事業管掌役員がSTVC社長就任

管理体制

- ◆ 海外収益の邦貨換算時の為替レート基準変更
- ◆ 中国子会社の新会計基準の導入準備

②中国市場の対応

中国子会社の収益
基盤拡充

新工場稼働

③東南アジア市場の対応

東南アジア市場の
本格展開準備

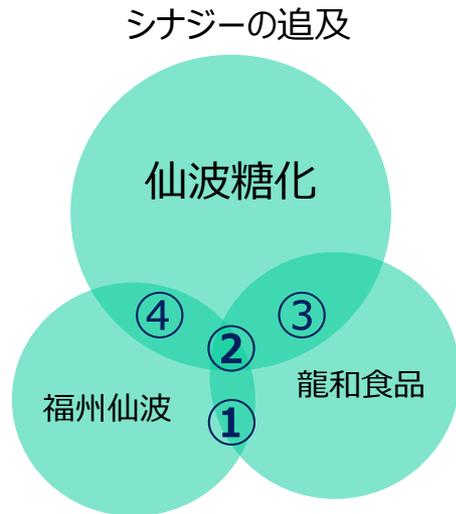
2019/3
ベトナム製造子会社設立
(STVC)

2020/3
新工場建設開始

①中国子会社の収益管理体制強化とグループ・シナジー追求

- ✓ 新会計基準導入 → 経理担当の研修中
日本の収益認識基準変更に合わせて新会計基準を導入予定
- ✓ 邦貨換算時の基準変更：期末日レート→期中平均レート
- ✓ 収益認識の早期化

開発戦略室主導で中国市場向け自社商材開発に注力



		シナジー実績例		重点ターゲット			
販売エリア		中国	日本	中国	中国	アジア他	
		①	②	③	④	③	④
仙波糖化	開発			○	○	○	○
	生産						
	営業		○			○	○
龍和食品	生産	○	○		○	○	
	営業	○			○		
福州仙波	生産	○		○			○
	営業		○	○			

②ベトナム工場の計画通りの竣工

- ✓ 2021年度内完成予定 ……新型コロナの影響は軽微
- ✓ 製造担当社員の育成



中国市場

-  龍和食品
-  福州仙波

東南アジア市場

-  SEMBA-NFC
-  STVC(工場建設中)

日本

-  東北センバ
-  仙波糖化

【海外事業収益】

(単位：百万円)

	17/3期	18/3期	19/3期	20/3期
中国事業				
売上高	46	195	2,496	2,692
営業利益	▲20	77	260	239
ベトナム事業				
売上高	1	30	41	78
営業利益	▲0	▲1	3	0

(注) 売上高、営業利益とも海外子会社単純合算ベース

中国事業

製造・販売

福州仙波

福建省・福州市

粉末製品(SD)

キャラメル製品

製造・販売

龍和食品

福建省・福州市

乾燥製品(FD・AD)

冷凍・冷蔵製品

注)FD：フリーズドライ、AD：エアードライ、SD：スプレードライ



中国新工場



新工場外観



冷凍庫



FDチャンバー



SD室



包装機

東南アジア市場へ日本品質基準製品を届ける

販売子会社：SEMBA-NFC
製造子会社：STVC…工場建設開始



工場立地・・・ホーチミン市より約40km
完成予定・・・2020年度末
製造予定品目
・食品原料、食品添加物、食品

ベトナム工場の建設現場



起工式 2020/3/4



工事現場メインゲート



工事風景 2020/3末



近況

人材育成

- ・19/9から日本で研修開始
- ・生産部4人、品質保証部3人、開発部1人

Ⅲ.2021/3期業績予想

【生産面】 上期は中国子会社の影響大だが、国内はほぼ影響無し

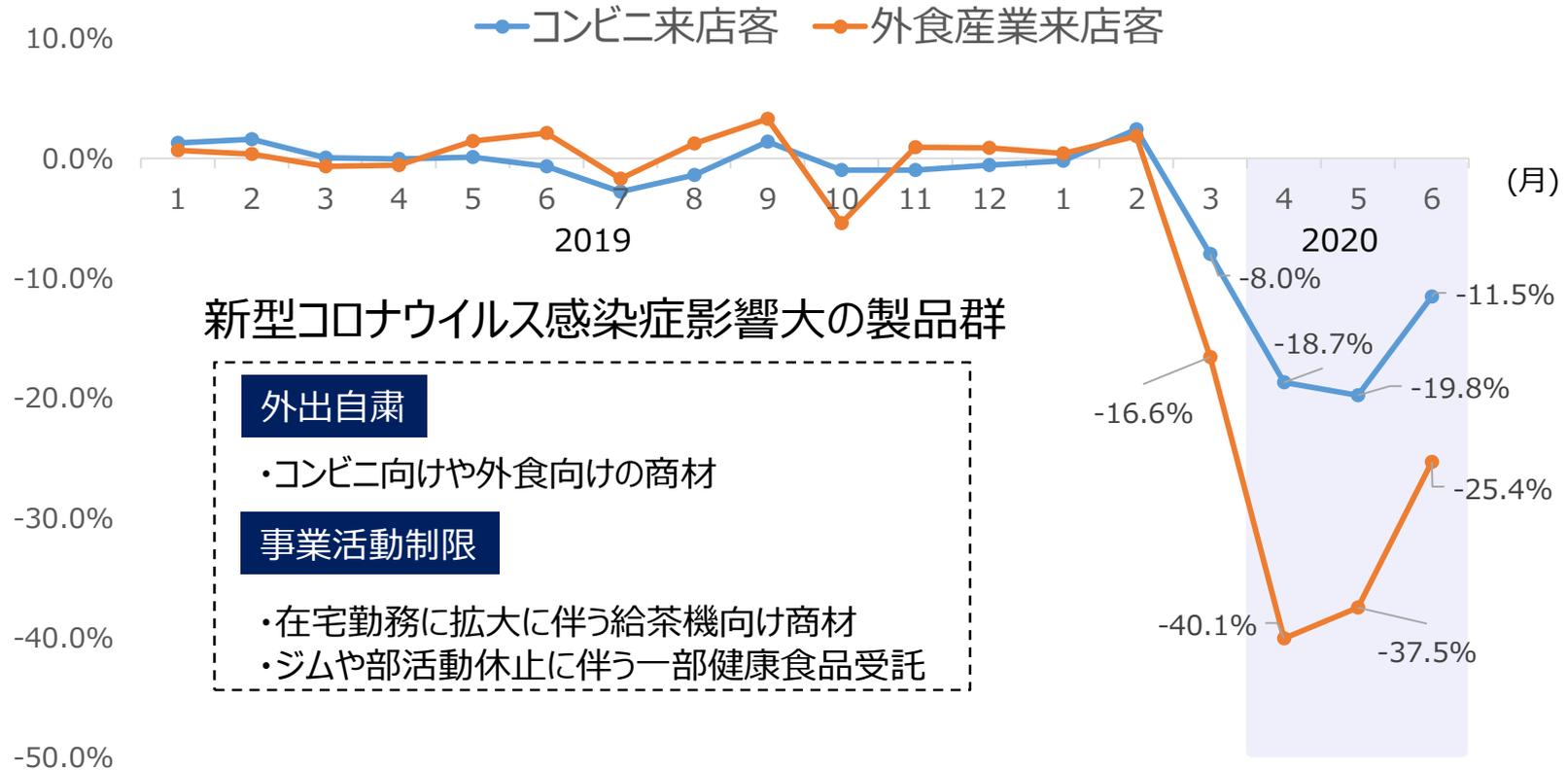
	1Q	2Q	3Q	4Q
日本	(4-6月)	(7-9月)	(10-12月)	(1-3月)
単体	ほぼ影響なし	ほぼ影響なし	ほぼ影響なし	ほぼ影響なし
子会社	ほぼ影響なし	ほぼ影響なし	ほぼ影響なし	ほぼ影響なし
海外	(1-3月)	(4-6月)	(7-9月)	(10-12月)
中国	▲63%	▲50%	▲25%	ゼロ
ベトナム	ほぼ影響なし	ほぼ影響なし	ほぼ影響なし	ほぼ影響なし

【需要面】 一部商材の需要減少が見込まれるもバラ付きあり

	1Q	2Q	3Q	4Q
日本	(4-6月)	(7-9月)	(10-12月)	(1-3月)
需要減	粉末茶、 健康食品、 冷凍商材	一部商材底打ち	回復基調	正常化
需要増	巣ごもり向け商材 (即席めん向け商材 粉末ソースなど)	引合い継続	巣ごもり需要反落	正常化
海外	(1-3月)	(4-6月)	(7-9月)	(10-12月)
中国	内需減少	底這い	回復基調	正常化
ベトナム	ほぼ影響なし	一部商材減少	回復基調	正常化

コンビニ及び外食産業来店客数推移 (全店ベース)

(前年同月比伸び率)



(出所) 日本フランチャイズチェーン協会、日本フードサービス協会

- ✓売上高は、外出自粛や事業活動制限の影響で5.7%減収
- ✓営業利益は、販管費削減を強化するも、減収要因をカバーできず、15.5%減益

(単位：百万円、円)

	2020/3期 (1Q)		2021/3期 (1Q)		
	金額	前同比 伸び率	金額	前同比 伸び率	上期予想 進捗率
売上高	5,056	▲0.8%	4,767	▲5.7%	49.1%
営業利益	235	▲39.8%	199	▲15.5%	53.9%
経常利益	237	▲37.7%	186	▲21.7%	54.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	124	▲49.6%	48	▲61.4%	20.9%
1株純利益	10.95	-	4.22	-	-
減価償却費	224	-	198	▲11.7%	-
研究開発費	93	-	77	▲17.3%	-

売上高 204.0億円 ▲1.7%減収
 営業利益 9.3億円 ▲12.0%減益

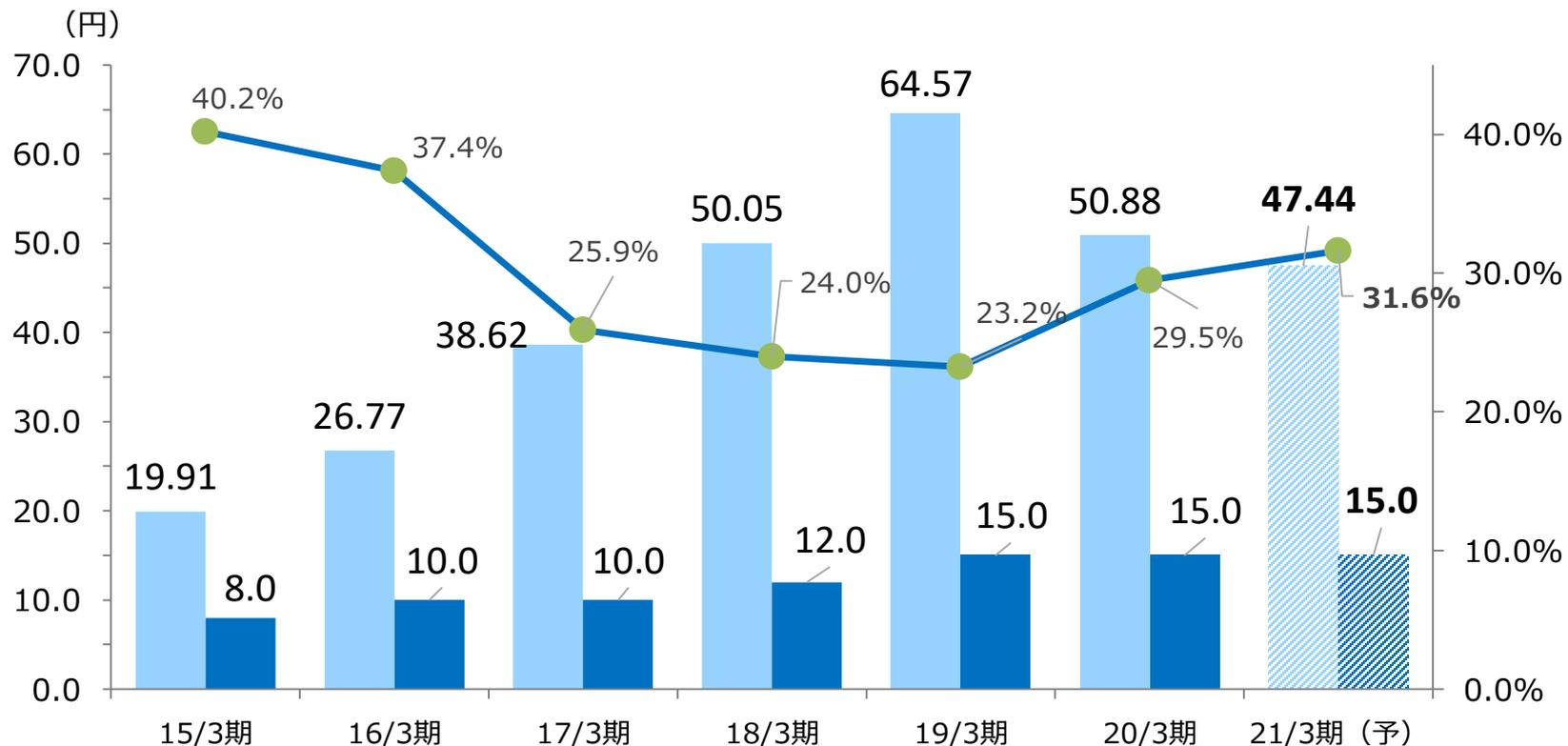


(注) 連結決算開始は2009/3期

IV. 株主還元

安定配当を維持する

■ 1株利益 ■ 配当金 ● 配当性向



対象となる株主様

9月30日現在、5単元（500株）以上保有の株主様が対象。

2020年度の優待品

3年未満保有の株主様

自社製品 **3,000円相当**



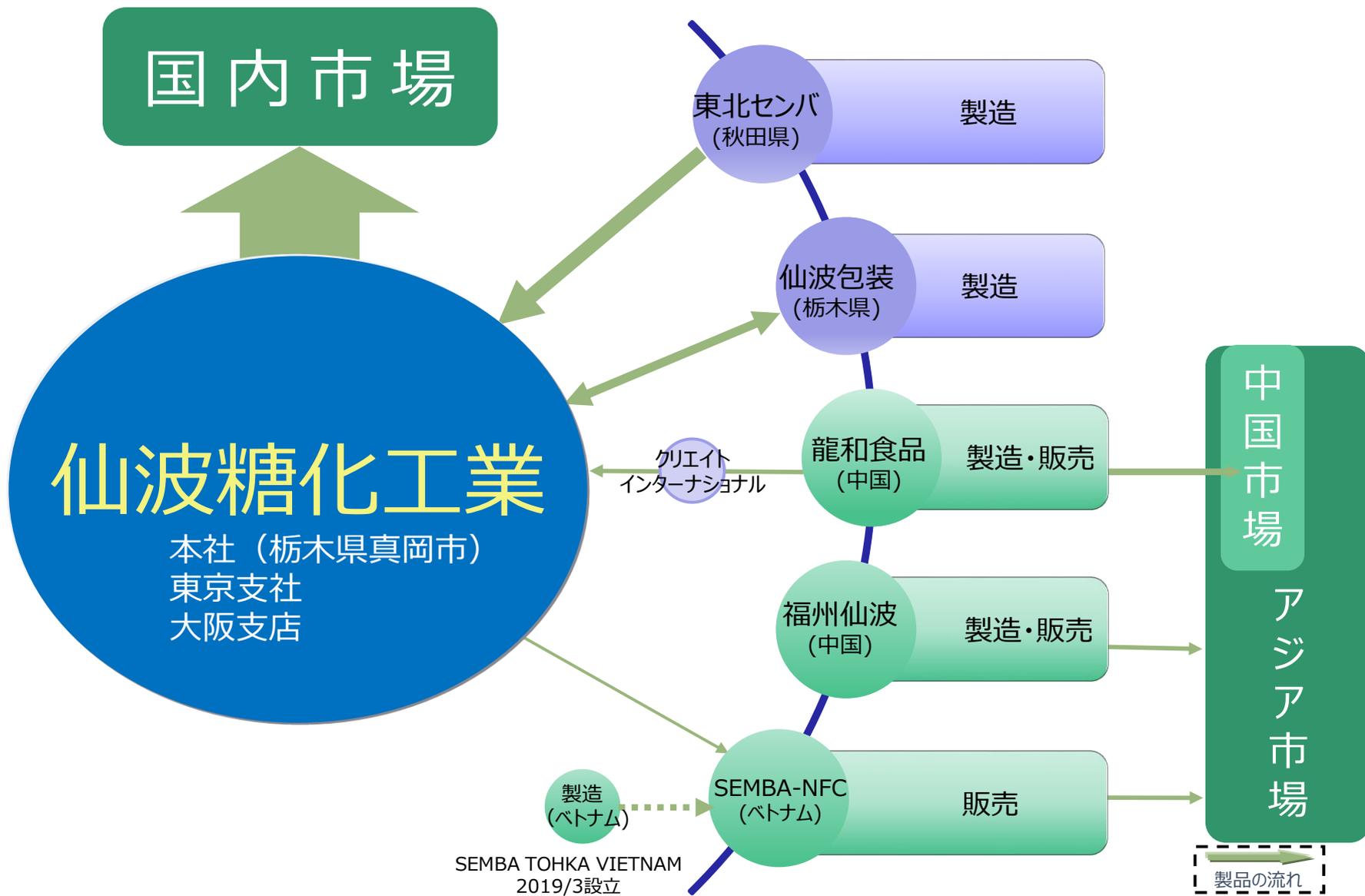
3年以上保有の株主様

自社製品 **5,000円相当**



參考資料

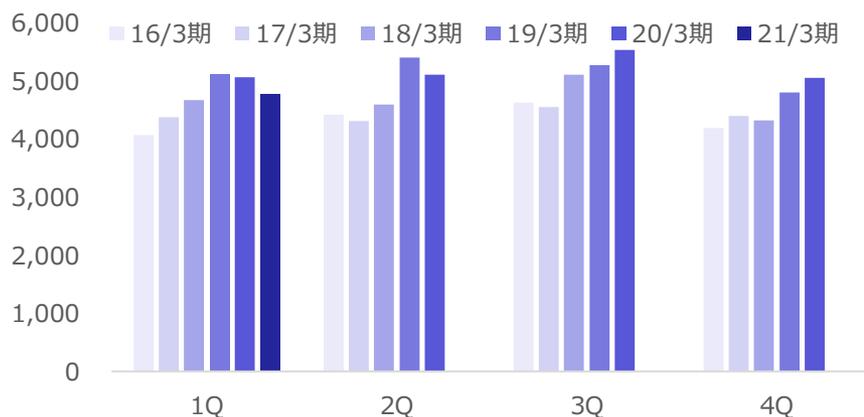
- 1946年 10月 栃木県真岡市に創業、カラムルの製造販売開始。
- 1963年 5月 スプレー・ドライヤーを新設し、粉末食品の生産開始。
- 1967年 7月 茨城県水戸市に工場を新設。
- 1971年 11月 真岡工業団地に真岡第二工場を新設。
- 1972年 5月 太陽食品包装株式会社設立。(現：仙波包装株式会社)
- 1974年 3月 真岡第二工場の第2期増設完了。フリーズ・ドライ製品の生産開始。
- 1977年 9月 本社工場に造粒設備を新設。
- 1979年 9月 スプレー・ドライヤー及び造粒設備増強のため真岡第三工場を新設。
- 1988年 9月 水戸工場を真岡第三工場へ移転。
- 1990年 7月 株式会社東北センバを設立し、冷凍山芋の生産開始。
- 1991年 1月 福建龍和食品実業有限公司を共同で設立。
- 1994年 11月 資本金13億4,050万円に増資。日本証券業協会に株式を店頭登録。
- 2001年 8月 資本金15億50万円に増資。
- 2003年 11月 福州仙波食品有限公司(現:福州仙波糖化食品有限公司)を設立。
- 2006年 4月 真岡第二工場に昆布エキス製造工場を新設。
- 2006年 9月 真岡第二工場に粉末茶製造工場を新設。
- 2007年 4月 冷凍和菓子の生産開始。
- 2007年 8月 真岡第二工場に鰹節エキス調味料設備を新設。
- 2011年 5月 真岡第三工場スプレー・ドライヤーS&B。
- 2012年 11月 株式会社東北センバ大館新工場稼働。
- 2016年 10月 SEMBA-NFC設立。
- 2017年 4月 真岡第二工場焙焼製品新工場稼働。
- 2018年 1月 福建龍和食品実業有限公司を子会社化。
- 2019年 3月 SEMBA TOHKA VIETNAM設立。



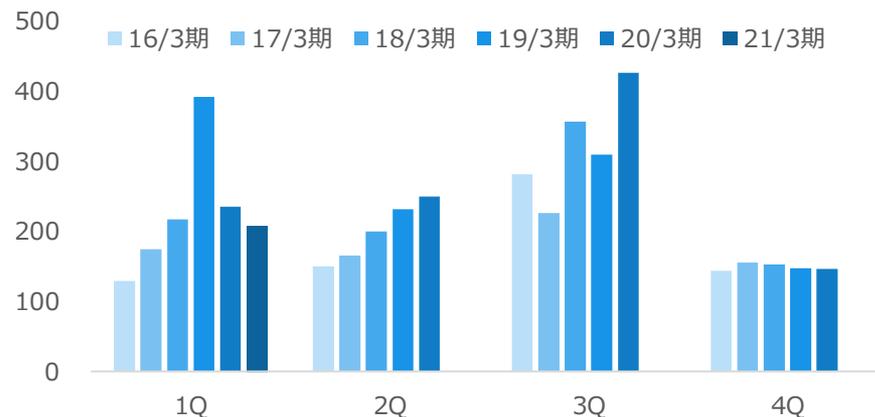
四半期業績推移

(百万円)

四半期売上高推移



四半期営業利益推移



(単位：百万円)

	18/3期				19/3期				20/3期				21/3期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	4,665	4,594	5,100	4,316	5,099	5,395	5,268	4,793	5,056	5,107	5,526	5,053	4,767
カラメル製品	892	883	966	861	972	940	1,052	867	947	940	1,031	893	903
乾燥製品類	1,469	1,468	1,660	1,526	1,626	1,635	1,771	1,647	1,531	1,420	1,719	1,546	1,489
組立製品類	1,255	1,241	1,579	1,158	1,206	1,400	1,418	1,310	1,310	1,404	1,456	1,194	1,113
冷凍製品	692	735	552	483	985	1,080	703	687	950	1,014	951	1,113	933
その他	355	268	343	288	308	340	324	282	316	329	367	307	326
営業利益	217	200	356	153	391	231	309	147	235	249	426	146	199

- ✓原価率は、自社商材の落ち込み大きく、1.1%ポイント悪化
- ✓販管費削減に努めるが、原価率上昇をカバーできず、
営業利益率は、4.2%へ低下

(単位 ; 百万円)

	2020/3期(1Q)		2021/3期(1Q)		
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	前同比 (伸び率)
売上高	5,056	100.0	4,767	100.0	▲5.7%
売上原価	3,937	77.9	3,766	79.0	▲4.3%
売上総利益	1,119	22.1	1,001	21.0	▲10.5%
販管費	883	17.5	801	16.8	▲9.2%
営業利益	235	4.7	199	4.2	▲15.5%
営業外損益	1	0.0	▲13	▲0.3	▲767.9%
経常利益	237	4.7	186	3.9	▲21.7%
特別損益	▲6	0.1	▲21	0.4	+210.0%
税引前利益	231	4.6	165	3.5	▲28.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	124	2.5	48	1.0	▲61.4%

営業外損益

営業外収益

23百万円→20百万円

営業外費用

21百万円→34百万円

特別損益

特別損失

6百万円→21百万円

要約貸借対照表

(単位：百万円)

	2020/3末	2020/6末	増減額
流動資産	11,762	11,846	+84
現金及び預金	3,757	4,034	+277
受取手形及び売掛金	4,080	4,047	▲32
棚卸資産	3,634	3,481	▲153
固定資産	9,667	10,275	+607
有形固定資産	6,612	7,134	+522
無形固定資産	574	577	+2
投資その他資産	2,480	2,563	+82
資産合計	21,430	22,121	+691

棚卸資産 ▲153百万円
 ・商品・製品 ▲191百万円
 ・仕掛品 +104百万円
 ・原材料・貯蔵品 ▲66百万円

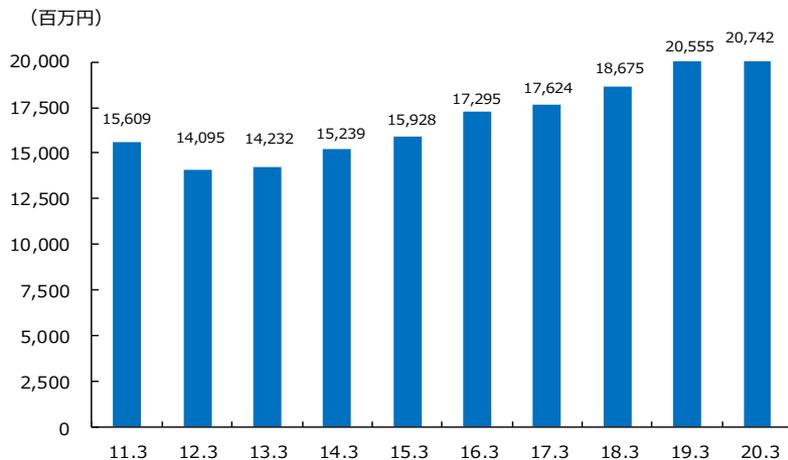
流動負債	8,061	8,644	+582
支払手形及び買掛金	2,429	2,176	▲253
短期借入金	3,855	4,848	+993
固定負債	2,906	2,982	+75
長期借入金	1,316	1,373	+56
負債合計	10,967	11,626	+658
純資産合計	10,462	10,495	+33

有利子負債 +1,050百万円
 ・短期借入金 +993百万円
 ・長期借入金 +56百万円

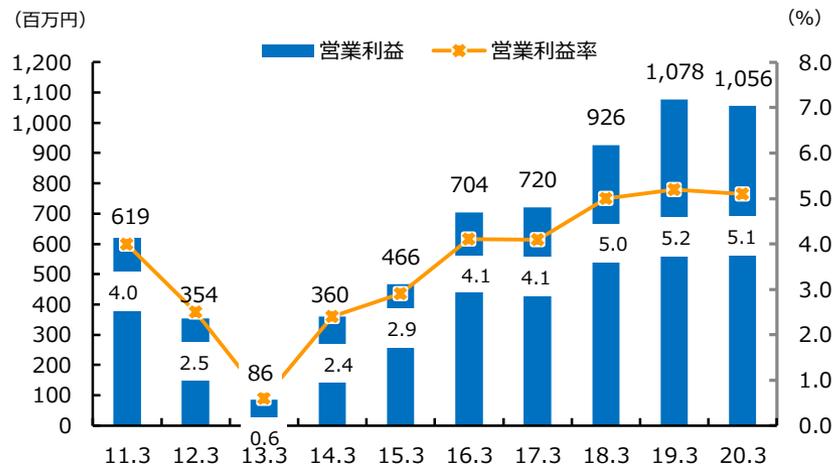
⇒自己資本比率 43.4%
 (▲1.3ポイント)

主要財務データ①

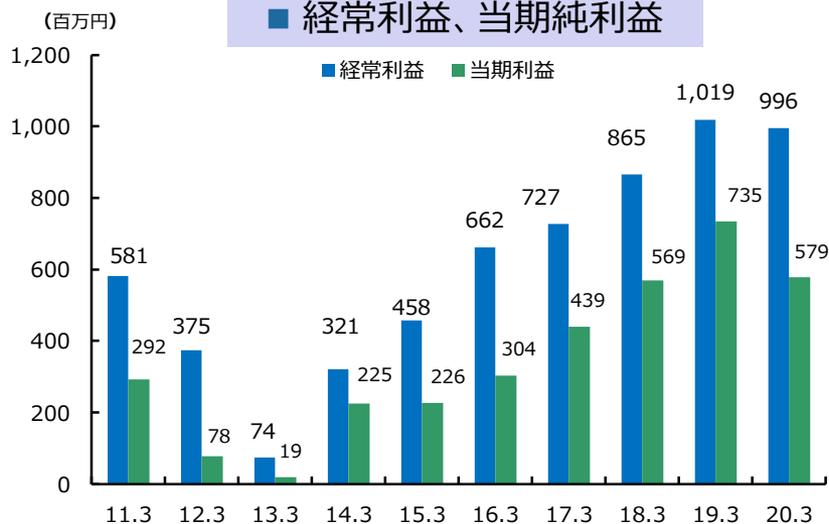
売上高



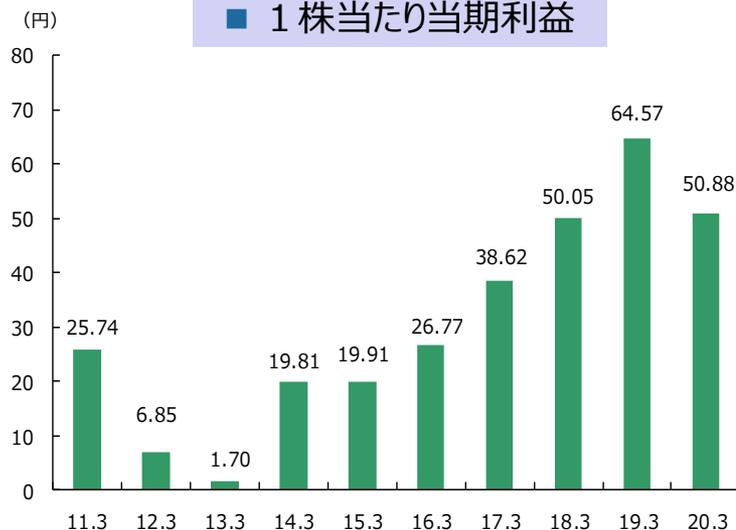
営業利益



経常利益、当期純利益

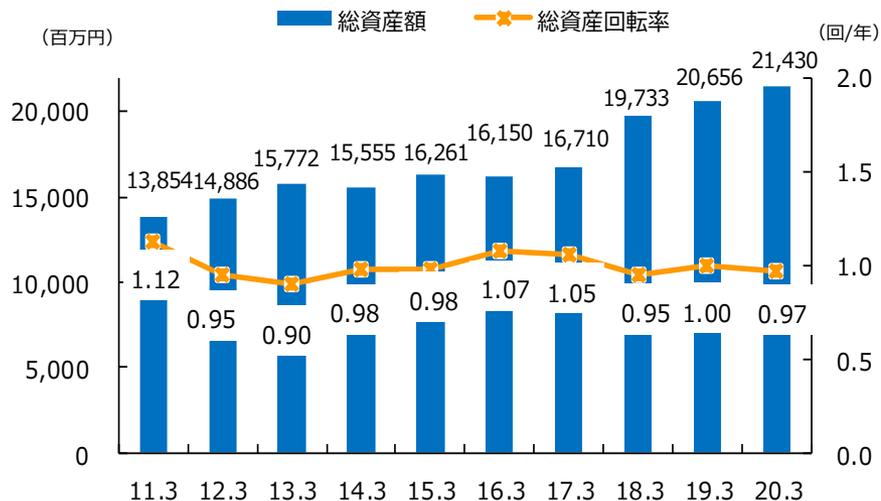


1株当たり当期利益

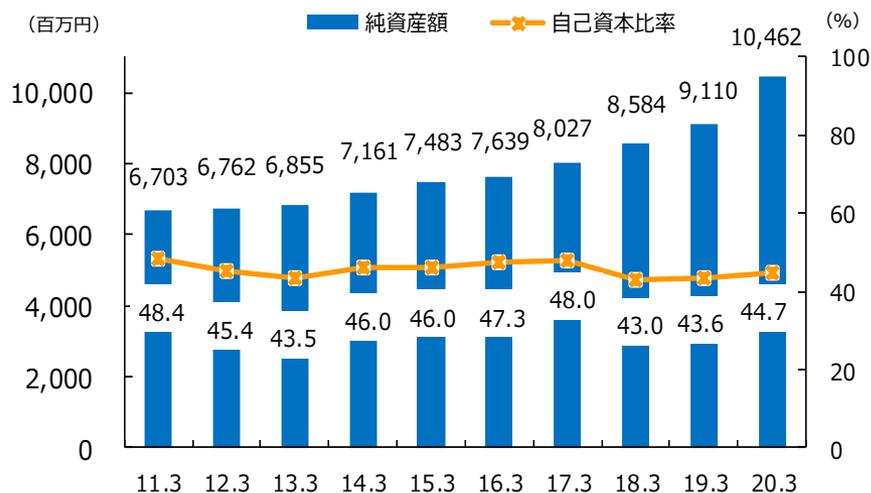


主要財務データ②

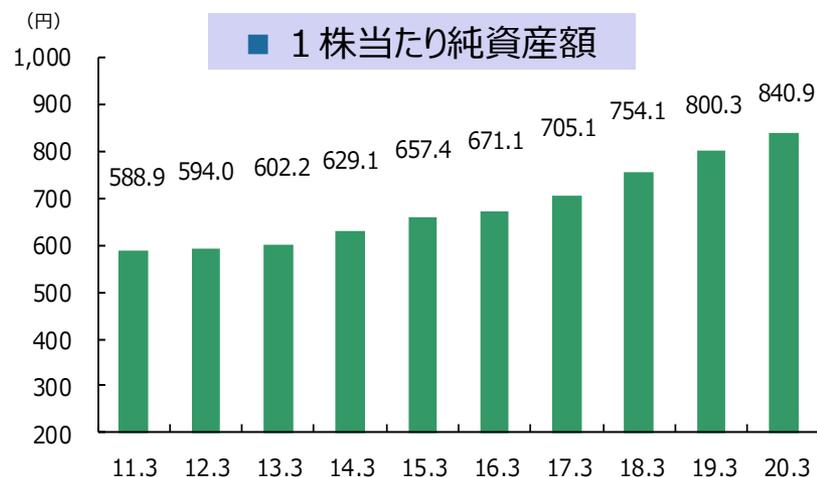
■ 総資産、総資産回転率



■ 純資産額、自己資本比率



■ 1株当たり純資産額



〈お問い合わせ先〉
仙波糖化工業株式会社
総務部 IR担当

TEL: 0285-82-2171

FAX: 0285-84-3283

E-Mail : ir@sembatohka.co.jp

当社IRサイトもご覧ください。 <https://www.sembatohka.co.jp/>

本資料には当社の計画、見通し、経営戦略および経営方針に基づいた「将来予測に関する記載」が含まれております。この「将来予測に関する記載」には発表日時点までに入手可能な情報に基づいた経営判断や前提が述べられております。そのため諸与件の変化により、実際の業績は「将来予測に関する記載」とは異なる結果となる可能性があります。従って本資料における業績予想などの「将来予測に関する記載」が将来に亘って正確であることを保証するものではないことを、ご了解いただきますようお願い致します。なお、掲載内容について当社はあらゆる面から細心の注意を払っておりますが、それらには誤りやタイプミス等が含まれる可能性があります。